

学校を飛び出して、
地元で活躍するオトナを取材しよう！

好きなことが何に 活用できるのか考える

岐阜協立大学
教授 森誠一さん



ハリヨなどの淡水魚の研究をしている岐阜協立大学の教授である森誠一さんに進路や経験など様々なお話を伺いました。

Q 岐阜協立大学とはどのような大学ですか？

地域に根差した大学であることが大きなポイントだと思います。地域に有為な学生を育てるとというのがキャッチフレーズになっています。

経済学部では、現実の世界を多様な専門分野から、地域特性を意識した社会の活性化を図る内容を教授し、同時に自身の役割を社会の中で位置付ける作業を通じて自己研鑽できるカリキュラムとなっています。『地域に有為な人材育成』というところを理念として求めているというのが特徴です。

省には国の一級河川の河川整備基本方針を決める委員会があり、その委員をしばらく務めています。これは日本にある109本の一級河川それぞれの川づくりの指針を決めるものです。また、ハリヨ保全を通して池田町とは30年くらい前からお付き合いがあります。

三つ目は、啓発的な活動です。簡単に言うとな本を書いたり、雑誌に文章を掲載したり、講演会やテレビ等の監修（時として出演）などですね。



Q 森先生の専門である生物学や環境生態学ではどのようなことが学べますか？

生き物を通して多様な見方を実感的にリアルに考えてもらいたいな、というのがこの生物学です。また命の尊さを同時に学んでもらえるよう教えています。

無知ほど怖いものはないので、まず基本的知識をつけ、さらに知識から知力や行動に移すにはどのようにしたら良いか、ということができるだけリアリティーをもつて考えることができるように講義しています。

Q 大学以外ではどのような活動をされていますか？

大きく分けて三つあります。一つ目が完全な専門的な研究です。様々な大学との共同研究と国立遺伝学研究所などの研究機関のプロジェクトに参加しています。その中には私が代表しているものもあります。

二つ目が行政等の委員会です。例えば、国土交通

籍し、中華人民共和国に外務省関係の研究で二年ほど関わり滞在中でした。

研究というものは半分道楽的要素があるものです。好奇心に満ちたオタク的に「これを詰めた」という気持ちが必要なんです。だから、どれだけ覚悟があるかというところになってきますね。

そういったところを極限まで突き詰めていくと、それが人類で最初の発見になることがあります。それは一種の恍惚を伴う幸福感があります。ダーウインの近代生物学ができて百数十年、この歴史の中で一番に私が見つけたと思いつめる瞬間がありました。その時は本当に「どや顔」をしていたと思います。

Q 教授になるまでの道のりを教えてください。

一般論で言うと、論文を書いて学会発表のような場で、あの面白い研究をしていると思ってもらおう感じですね。また、大学で公募がかかって応募し面接があるって感じですね。普通の就職と本質的にはさほど変わりませんが、自身の研究業績が必須と言えます。

Q 理系志望の高校生にアドバイスをお願いします。

理数となることや数学ですね。問題が解ける解けないではなく数学的思考の錬成に努めてほしいです。物事を論理的に積み上げて考えるということは何においても重要なことだと思います。その究極のエッセンスが数学だと思うので、数学の力をつけ、数学的思考を身に着けるといことは社会問題を扱う上でも結構大事です。

でも、大学入試のみならず研究職のことを考えると英語も大事です。当たり前のことですが論文を書くときも、自己表現をするときも英語は必須になってくると思うので、語学力は重要です。また、書くだけでは

行ったとき、ニコラス・ティンバーゲンという人の本を見つけてました。パラパラと内容を見てみると、ハリヨの親戚と言えるイトヨの事が書いてあったんです。そこには巣を作るとかジグザグダンスをするとか書いてあって「ハリヨと同じじゃん」と思って、動物の行動って面白いなって思いました。

そしたら私が高校生の頃にティンバーゲンがノーベル賞をとったんです。「魚や動物とかの研究でもノーベル賞がとれるんだ」「研究として認められるんだ」と思ったことが、もう少し深みに入るきっかけです。

また、二十歳代でハリヨの研究をして論文を書いたんです。それをティンバーゲンに見てもらおうと思いい、手紙を書きました。そしたら「良いよ」という返事が一、二週間で返ってきました。彼からしたら誰かわからない紹介状も無いのに。その時彼は年配で怪我をして入院中だったんだけど、奥さんのタイプを含めティンバーゲンの直筆の手紙がきました。そこには弟子に送ってくたいとあつたんです。それでお弟子さんに送ったところ、それが私の国際学術雑誌に載った第一号になりました。そうして今日に至るというわけです。



秦康之撮影

Q 大学卒業後の進路を決めるときはどのようなものでしたか？

卒業後に研究職にスムーズに就ける人はいませんが、そうでない人の方が多いです。博士号を取得したとしても必ず就職できるわけではないのです。私自身も山形大学や国立環境研究所などに研究員等として在

Q 森先生の活動と池田高校には関わりがあるようですが、それはどのようなものですか？
年に一回8月上旬に池田高校の生徒さんに、地元ハリヨを守る会の個体数調査などの作業のお手伝いをしてもらっています。池田町のハリヨを守る会の方々は、全体的に高齢化してきているので高校生が来てくれるととても助かるとおっしゃっています。

Q ハリヨを研究対象にされたのはなぜですか？

私が小学四年生か五年生の頃、とある川で綺麗な小さい魚を捕まえました。特にオスが綺麗なんです。一見熱帯魚的な色合いをしているので面白くなって調べたんです。そしたらそれがハリヨで、説明文に「絶滅に瀕している」とも書いてありました。凄いものを捕まえたんだなと思いました。

次は中学生の頃になります。父と百貨店の本屋に

なく読みこなし、自身から発信する力も大事です。

好奇心の追求もさることながら、自身の関心や活動が結局は何に役立つのかも検討しておいた方がいいと思います。文系ではなく理数系が好きなのは、好奇心に基づく自己表現を踏まえて、それが何に活用できるのかというところになりますね。そうすると淡々と勉強に励むってことになると思います。



【感想】

インタビューでは大学の話や森先生の子供の頃の話、進路の話など沢山聞かせてもらいました。

とても面白い興味深い話でした。森先生がハリヨやイトヨなどの話をする時とても熱く楽しそうに話してくださいだったので本当に好きなのだなと感じました。岐阜協立大学内にある池を見せてもらいました。その池にいるハリヨは大垣のある場所から移動してきたそうなんです。森先生が移動させなかつたらハリヨの数が減っていたと考えるとこわいと思いました。

森先生から頂いたアドバイスを中心にもしつかり勉強に励もうと思います。